

A P O R S 発 足

APORS (= Association of Asian-Pacific Operational Research Societies, アジアOR学会連盟)が発足した。IFORS(国際OR学会連合)内にEURO(欧州OR学会連盟)があるように、アジア地域諸国のOR学会の連合体を作ろうという考えは、かなり古くからあったが、このたびようやくその機が熟し発会のはこびとなった。

さる3月21日、筑波学園都市にある国立公害研究所会議室に5カ国の学会の5名の代表、IFORSの代表1名およびオブザーバーが集まった。まず、日本OR学会会長、公害研究所所長近藤次郎教授の歓迎の挨拶の後、IFORS副会長伊理正夫教授(東大)による経緯の説明にひきつぎ、IFORS日本OR学会代表高森寛教授(青山学院大)を当日の議長として発会に先立つ準備調整のための会議もたれた。

最初に議論の対象となったのは、本連合の性格づけである。IFORS内の連合とすること、当面は友好的交流の推進を活動の中心とすることなどが大方の意向として認められたが、後者についてはもう少し積極的に一步をすすめたいという韓国代表の意見があったことも記録しておくべきであろう。次に、問題となったのが会長・副会長の選出である。日本を除く各国の代表は、伊理教授に会長就任を求めたが日本側はこれを固辞、むしろ1972年においてすでにアジア地域のOR学会連合設立を提唱した韓国の代表を会長に推し日本は事務運営を担当したいという希望を表明した。これに対し韓国代表は、他は知らず、韓国の文化的伝統に照し本国のOR学会の会長たるものが連合の会長たる資格であるという点から固辞された。これに対し、「会長はその属する国のOR学会内で交替し得る」という理解で、ようやく受諾される所となった。(後日 Rha Woong Bae 氏が正式に会長となることとなった。)さらに副会長として推された中国代表も本国OR学会の承認を条件に就任を承諾された。(本国の承認は得られた旨後日連絡があった)

こうして、第1代APORS会長韓国代表 朴 在夏博士によって第1回代表者会議の開会が宣せられ、会長および副会長中国代表徐光輝教授の就任の挨拶が行なわれた。この中で朴会長は1988年韓国京城においてAPORSの会議を開催したい旨、韓国OR学会の意向を表明され



た。ついで、定款文言に関する調整と承認。さらに財務担当としてオーストラリア代表ジョンストン博士、書記長として日本OR学会庶務理事若山邦紘(法政大)が就任されることが決定された。若山教授はNewsletterの構成に関し、かねて準備されていた原案を示しながら、意見と協力を求められた。こうして、第1回APORS代表者会議は成功裡に閉会することができた。互いにゆずり合いながら友好的雰囲気の中に交渉をすすめる東洋的伝統が遺憾なく発揮され、オーストラリア代表はむしろとまどっておられるようにも見うけられた。

各国代表のなかにははじめて来日された方もあったが2回にわたる会食、会議の翌日に近藤会長のご配慮によって行なわれた学園都市見学会等を通じ、日本側事務局の面々とも次第に友好を深めることができた。第1回代表者会議は、APORSの目的に関してすでに成果をあげたものと思う。なお、APORS参加国、今回出席の代表等は次のとおりである。

オーストラリアOR学会(出席代表 R.E. Johnston 博士)
／中国OR学会(徐光輝教授)／香港OR学会／インドOR学会／日本OR学会(出席代表高森寛、若山邦紘書記長)
／韓国OR学会(出席代表朴在夏博士らオブザーバー姜教授)／ニュージーランドOR学会／シンガポールOR学会(周金麟教授)／IFORS代表(伊理正夫IFORS副会長)

このようにAPORSが発足されるまでには内外において幾多の紆余曲折があったものと仄聞する。しかしIFORS会長Müller-Merbach教授の支持の下、IFORS副会長伊理教授をはじめとして、昨年行なわれたIFORS大会に出席された諸氏の精力のかつ献身的な準備活動が実を結んで今日に至ったことは日本OR学会会員諸にもぜひお知らせしておきたい。(文責 柳井 浩)